

ベトナムにおける現地情報

2022年8月18日

ASIA GATE VIETNAM CO., LTD.

豊田英司

【渡航関連ニュース】

(ベトナム入国後にコロナ感染し、帰国できない事例が増えています)

今年5月以降、ベトナムへの入国に関するコロナ関連規制は原則廃止されました。これを受け、日本からのベトナムへの短期出張者が増えています。

ただ、日本へ帰国する際にはベトナムを出国する72時間前にPCR検査を受け、陰性である証明を得ないと日本へ入国できません。

しかし、昨今、ベトナムでの再度のコロナ感染者の増加により、この検査で陽性判定を受け、予定通り帰国できない方が増加しておりベトナム大使館からも注意喚起が出ております。

大半の短期出張者は15日間のビザ不要措置で入国されていると思いますので、コロナ陽性の場合、ベトナムでは軽症又は無症状で自宅療養する場合、陽性となった日から起算して7日目に検査を受けて陰性となるのが最短となり、もし、それでも陽性が続く場合は、ワクチン接種者は10日目まで、ワクチン未接種者は14日目まで自宅療養が継続となってしまいますので、こうなると、大半の短期出張者は15日間のビザ免除期間を超えてしまうので場合によっては罰金などの発生が考えられます。

また、そもそも予定よりも滞在が伸びることでホテル代も増えますし、追加のPCR検査などの費用も発生します。

ベトナムへ来てからのコロナ感染は防ぎようがない面もありますが、不特定多数の出入りする場所へ行く回数を減らすなど、できる部分からご注意いただければと思います。

【経済関連ニュース】

(ベトナムの本年度の経済成長は明るい見込み 世銀調査より)

世界銀行が先日発表したベトナムのマクロ経済に関する最新レポートの中で本年度のベトナムの国内総生産(GDP)成長率予想を6月調査の+5.8%から+7.5%へと大幅に引き上げたことが話題になっています。

引き上げ理由としては、ベトナムの製造業、およびサービス業の回復が予想を超えて加速している、としています。

確かにこの数ヶ月、サムスンやLGなど韓国大手の大型投資の話が相次いで報道され、さらに国内の自動車販売台数も大きく伸び、国内消費も順調に回復し、コロナ後の経済回復は順調に進んでいるといえるかと思えます。

(ベトナムの賃金はますます上昇しています)

ベトナム総統計局の2022年4月-6月の平均賃金調査は前年同期比で8%以上も上がる(660万ドン:約3万8,280円)結果になり、現在、製造業ワーカー層の全国的な不足が報道されておりますが、それを裏付ける形となりました。

今後、中国からベトナムへの製造移管が北部中心にさらに進み、観光業、飲食などの復調も伝えられる中、平均賃金はより一層、高騰する公算が高いと思われま

す。ちなみに、調査で示された都市別の賃金は以下の通りでホーチミンやハノイなどの都市部ではさらに高い平均賃金となっていることがわかります。

=====

・省・市別の平均月収(2022年4月-6月)

- ー ホーチミン市: 910万ドン (約5万2,780円)
- ー ビンズオン省: 890万ドン (約5万1,620円)
- ー ハノイ市: 870万ドン (約5万460円)
- ー ドンナイ省: 860万ドン (約4万4,880円)
- ー バクニン省: 830万ドン (約4万8,140円)

=====

日本ではベトナムの最低賃金として、この半額程度の金額がよく報道されていますが、都市部においてはそのような金額で雇用することは不可能に近くなっておりますので、進出計画をお考えの場合には考慮が必要かと思えます。

以上